

Bloomberg.co.jp

フィノウェイブ「運用業」登録で年金資金獲得へー当面1000億円目標

7月22日(ブルームバーグ):国内ヘッジファンドのフィノウェイブインベストメンツは、今後数年で運用資産額を現在の4倍に相当する1000億円程度まで増やす計画だ。5月に投資助言業より要件の厳しい投資運用業として登録したのを契機に、信頼性向上や運用管理コストの低減を通じて国内の年金基金からの長期資金の獲得を目指す。

若林秀樹社長(50)によると、同社は7月から日本のある企業年金基金と投資一任勘定を結び運用を開始した。フィノウェイブの運用は売りと買いを同時に進める日本株ロング・ショート戦略が中心で、年間収益10-20%を目指している。藤澤雅夫会長(51)は「運用成果を出すことが優先課題。無理に資金を集める考えはない」と強調した。

同社は2005年9月の設立。ともにみずほ証券出身で、機関投資家営業部門を統括していた藤沢氏や、総合電機のトップアナリスト若林氏らが共同で立ち上げた。助言してきた旗艦ファンドは、成長の見込める中型株の中長期投資と、ハイテク関連株の短中期投資を組み合わせ運用する。06年1月の運用開始以来からの運用収益は約45%だった。

同社が助言するファンド3本と1つの年金基金との一任契約を合わせた現在の運用額は約250億円。内訳は国内と海外の投資家が半々となっている。若林社長は「年金基金は従来のように大型株のロング(買い持ち)だけで運用することに否定的で、ある程度オルタナティブ(代替投資)運用が必要と考えているようだ」と指摘する。

若林氏によれば、伝統的な金融資産以外で運用するオルタナティブの中でも「ロング・ショート戦略に対する関心高まっている」という。複雑なデリバティブを使った運用より、良い株を買って悪い株を売るシンプルさが評価されているとみているようだ。

フィノウェイブは2008年のリーマンショックを契機に、運用収益を市場連動性(ベータ)に依存することを止めた。若林社長は、運用が振るわなかった07年について分析した結果、「アルファで十分収益が出ていたことが分かった」とし、現在は絶対収益(アルファ)を獲得する戦略に注力しているという。

記事についての記者への問い合わせ先:東京 伊藤小巻 Komaki Ito kito@bloomberg.net
山崎朝子 Tomoko Yamazaki yamazaki@bloomberg.net

更新日時: 2010/07/22 10:39 JST

© 2010 BLOOMBERG L.P. ALL RIGHTS RESERVED.

サービスの要項 | プライバシー保護方針 | 商標について